

北薩地域の金銀鉱石

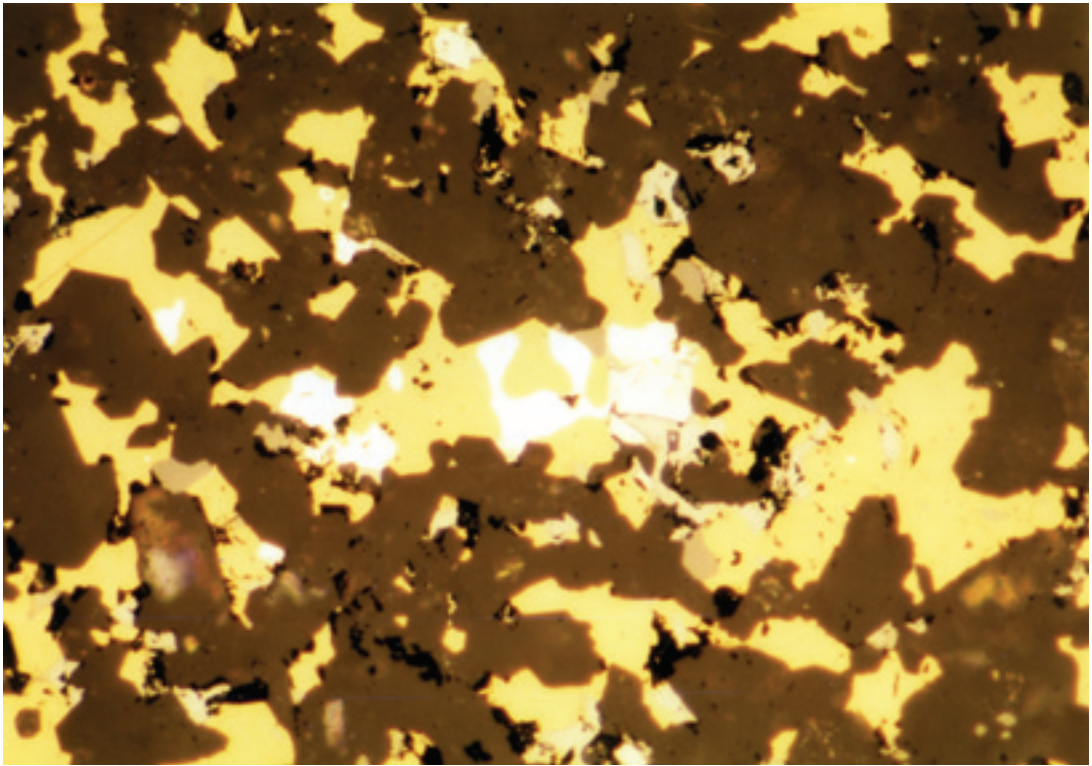
<浦島幸世>



1. 串木野金山(串木野1号ひ)の銀黒鉱石。高銀倍率と推定される。淡色部は石英と氷長石。黒色部は銀黒と呼ばれ、エレクトラム(金銀合金鉱物)や、銀、鉄などの金属の硫化鉱物が多く含まれている。右のスケールは1cm。鹿児島大学総合研究博物館の標本。



2. 菱刈金山の銀黒鉱石。菱刈では銀黒は珍しい。両側の灰緑部は凝灰岩。その内側の黒色部は銀黒と呼ばれ、エレクトラム(金銀合金鉱物)や、銀、銅、鉄などの金属の硫化鉱物が含まれている。中央の白色部は石英と氷長石。脈部の金、銀、銅の品位は、それぞれ約1%。100mLE20B菱泉1脈。鹿児島大学総合研究博物館の標本。



3. 菱刈金山の金鉱石研磨面の反射顕微鏡写真。エレクトラム(黄白色), 黄銅鉱(黄色), 石英と氷長石(灰褐色), 下辺の長さは0.2mm, 100mLE18B菱泉1脈, 鹿児島大学総合研究博物館の標本。



4. 宮之城町川内川の砂金, 砂礫の中から選び出したエレクトラム(金銀合金鉱物), 黒色粒は岩石片, 下のスケールは, 1目盛1mm, 前野昌徳氏の標本。